



総合的な学習の時間 ≡ CP(コミュニティプロジェクト)

12月19日、3年生の総合的な学習の時間で鹿追町の活性化をテーマに、プレゼンテーションが行われました。この取り組みはこれまでも鹿追中・瓜幕中の3年生が取り組んできたものですが、実はIBの取り組みにかなり近いものがあるのです。瓜幕中学校では1年生で登山やジオパーク、イグルーなどの体験活動を通して、鹿追町の良さを知ります。2年生でウチダザリガニ防除体験、バイオガスプラント見学などの活動を通して、鹿追町の実態を調査します。そして3年生となり修学旅行で鹿追町外（函館方面など）の地域の特色などを学びます。これらのことをふまえ、これから鹿追町がどのような町になっていくことが必要かを考え、まとめを行います。この一連の流れをもっと国際的で大きな枠組みとして捉えたものがCP（コミュニティプロジェクト）となります。



都留文科大学視察訪問

1月25日、26日には本町のIB教育に関心をもっていた、都留文科大学の佐々木先生、ヨハン先生による2日間の視察がありました。都留文科大学の文学部にはIB教員養成コースが設置されており、これまで全国のIB校に多くの教員を輩出しているという、まさにIB研究の最先端を走っている大学です。今回の視察は鹿追町にIBを導入するという情報を耳にされたことがきっかけでした。以前も、IBを導入しようとしている岡山県の備前市教育委員会が鹿追町教育委員会を訪問されました。

このように、すでに鹿追町の中学校が候補校としてIBに取り組んでいることは全国的にも知られているところです。



これまでIB教育に取り組んできた中で、最も大切なことは、IB校同士のつながりだと感じています。常に情報交換をしながら、教育をアップデートしていくことを心がけていきます。

25日の放課後には教員向けの研修会を佐々木先生に開いていただきました。視察という名目にも関わらず、私たちに多くのことを教えていただき大変貴重な時間となりました。私の中で心に残った言葉は「人間の芯にある共通性でカリキュラムを」です。そこには、世界のすべての子に平等で素晴らしい教育を提供したいという思いが込められているのだと思います。

26日の1時間目、2時間目を通して授業参観、面談を予定していましたが、強風で道路状況が非常に悪く、おふたりの先生の学校到着が遅れてしまいました。冬の北海道を1泊2日で視察というのは天候も含めてかなりハードな日程です。道内の各空港では欠航が相次いでいた中、帯広空港は通常運行されたことは本当に運が良かったです。少しの時間でしたが1年生の数学と音楽、2年生の英語を見ていただくことができました。

本校がIB校に認定されたらぜひ、都留文科大学の学生が教育実習等で来てもらえるような取り組みを行ってみたいと思いました。本校の生徒にとっても、大学生にとっても貴重な経験になることと思います。実現できるように魅力あるIB校を目指して尽力していきます。



こうやって楽しみなことが増えていくと良いですね。

みんなで学びを～IB用語～

①「重要概念」 ②「関連概念」 ③「グローバルな文脈」

各教科で指導の単元計画（ユニットプランナー）を作成し、探究テーマを設定する際に用いられる3つのカテゴリーをさします。

①**重要概念**とは、個別の学問分野や教科の学習にも、学問分野の枠を超えた学習や教科横断的な学習にも関連した「重要な概念(big idea)」を指します。重要概念の探究を取入れることにより、さまざまな科目や教科を相互に結びつけることが容易になります。

②**関連概念**は特定の学問分野に由来するもので、重要概念をより詳しく探究する際に役立ちます。関連概念の探究を通じて生徒は、より複雑で高度な概念理解を構築することができます。関連概念は、学習単元の主題に由来するものもあれば、その教科で実践し、身につける必要があること(つまり、教科の機能やプロセス)に由来するものもあります。

③**グローバルな文脈**は、人類に共通する人間らしさに関する各自の、そして共同の探究と地球を共に守る責任へと学習を方向づけるものです。MYPでは、世界を学習の最も広い文脈として捉えることにより、以下の6つの項目について意味のある探究に取り組むことができるようになっています。

- アイデンティティと関係性
- 空間的・時間的位置づけ
- 個人的表現と文化的表現
- 科学技術の革新
- グローバル化と持続可能性
- 公平性と発展